

北海道倶知安農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和 7 年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	・地域性を生かして、農業教育の質を向上させ、生徒の達成感を実感できる取り組みを充実させる。	A	・日本農業技術検定3級の合格率100%を目指す。
			B	・プロジェクト学習や農業クラブ活動、特に研究班活動の充実を図り、農業教育の活性化を目指す。
II 地域社会・産業に寄与する学校	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	・地域性を生かし、農業の国際化に対応したグローバルな教育活動を展開する。	B	・国際的な視野を持ちつつ、地元地域の特徴を生かした農業教育を充実させる。GAP継続認証への取組を充実させる。
	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	・地域の特色を生かした生産技術の学習を展開し、地域を支える人材育成を目指す。	B	・ようてい和牛のブランド化や日本酒「忠」の原料生産等、地元地域を意識した学習活動を継続展開する。
			B	・スマート農業技術を活かし作物栽培や飼育技術の学習とその実証実験の取り組みを行う。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	・農業の6次産業化の学習を展開し、地域産業を担う人材を育成する。	A	・地元酒造会社と連携・協働した日本酒づくり、酒粕の商品開発などの学習活動を充実させる。
III 地球環境を守り創造する学校			B	・研究班活動を通して、地域産業との連携を図り、地域理解を深める。
	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	・持続可能な農業生産への取り組みを充実させる。	B	・動植物の基本的な生理生態の基礎知識を身につけ、その生産工程管理を学び、時代に即した応用力を養う。
		・SDGsを意識した農業生産の取り組みを充実させる。	B	・施肥や防除基準を遵守し、GAP基準に沿った農産物の生産を行う。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	・地域未利用資源の活用や地域の人材、自然の恵みを積極的に活用する。	B	・地域の未利用資源である酒粕やおから等の飼料利用による畜産物生産技術の確立を行う。
IV 地域交流の拠点となる学校			A	・地元で廃棄される食品加工副産物や山野草等の天然資源を活用した商品開発の研究を行う。
	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	・農業の基礎基本を見直し、工程の見える化、自動化の基礎を学び、応用できる人材を育てる。	B	・ICTを活用したスマート農業に関する取り組みを行う。
V 地域防災を推進する学校		・農業生産者と農業理解者が共に豊かな環境を構築できる、情報環境づくりを目指す。	B	・交流学习や販売会等を通じて、コミュニケーション能力の向上に努める。
	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	・地域防災に努め、危機管理に対する意識を高める。	B	・農場の環境整備を徹底するとともに、防災への意識高揚を図り、安全教育を推進する。
			B	・GAP学習やリスク管理の学習を通して生徒への安全教育を推進する。